

E N E O S 海外渡航支援事業報告書（留学渡航）

2026年 3月 19日

工学部 工学研究科修士課程（どちらか○で囲む）
所属学科・専攻・回生 工学研究科建築学 学科 専攻 2回生
氏 名 上和田 静

1. 渡航期間 2025年 2月 1日 から 2026年 2月 20日

2. 渡航先(国・場所・機関等)

スイス、チューリッヒ、チューリッヒ連邦工科大学

3. 留学で得られた成果(概要)

本留学においては、設計・研究・実践を横断する総合的な建築的思考を深めることができた。
特に、スタジオ課題においては、建築を単なる形態の創出としてではなく、歴史・経済・素材
といった多層的な条件に基づくプロセスとして捉える姿勢を学んだ。分析・解体・再構成を繰
り返しながら設計を進める経験は、これまでの直感的な設計とは異なる思考の基盤となった。
また、資源・環境問題、西洋的に見たヴァナキュラー建築、住宅問題に関する法制度などの講
義を通じて、建築をより広い社会的・制度的文脈の中で捉える視点を獲得した。これにより、
今までの直感的・感覚的な設計アプローチだけでなく、論理的かつ体系的に思考を組み立てる
力が身についたと感じている。さらに、デジタル加工や木工などの制作環境を活用し、アイデア
を具体的な形として表現する力も向上した。高いレベルのアウトプットが求められる環境の中で、
自分の考えを他者に伝えるための図面や模型の精度も大きく高まった。加えて、英語での授業
や試験、多国籍な学生・実務家との交流を通じて、自身の考えを異なる文化的背景の中で伝える
力を培った。このように、建築を社会に開かれた実践として捉え、設計のみならず制度やコミュ
ニケーションのあり方まで含めて構想する姿勢を身につけたことが、本留学における最も重要
な成果である。

4. 奨学金の使途

本奨学金は、主に渡航費および現地での移動に係る交通費として使用いたしました。
